

第 4 節 高等学校教育

現状と課題

第 1 項 教育機会

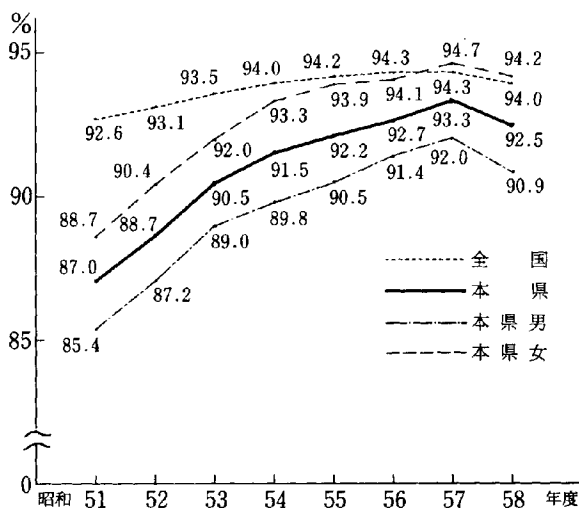
(1) 進学率

後期中等教育は、高等学校、高等専門学校及び盲・聾・養護学校の高等部で行われている。

これら高等学校等への進学状況を、昭和51年度から昭和58年度までの本県の進学率で見ると、逐年上昇傾向を示し、昭和53年度以降は90%台で推移している。また、全国の進学率と比較した場合、昭和51年度には5.6ポイント下回っていたが、昭和55年度以降はその差が2ポイント以下となっている。このように、本県の進学率は年ごとに上昇し、全国との差が縮まってきたが、全国的な進学率の伸びの鈍化傾向と同様、本県においても昭和58年度には昭和57年度より0.8ポイント下回った状況となっている。また、男女別の進学率の推移を見ると、女子の進学率が男子の進学率を上回り、その差は3ポイント前後で推移している(図2-4-1)。

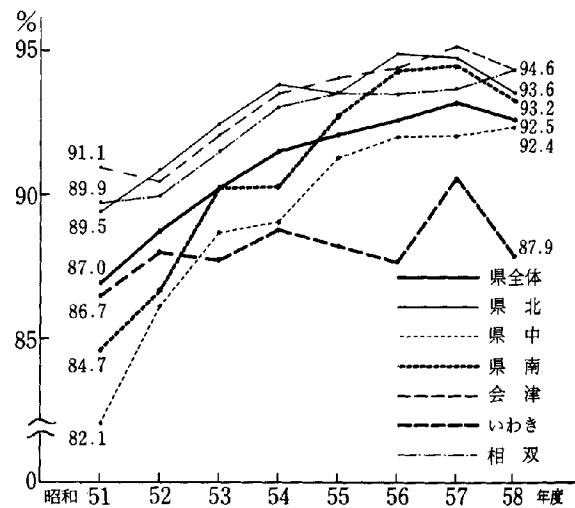
次に、県内各地域の進学率の推移を県全体と比較して見ると、県北、会津、相双の3地域は県平均を上回っているが、県中・いわき地域では県平均を下回っている。県南地域では、昭和55年度以降上回っている(図2-4-2)。

図2-4-1 進学率の推移



注：1. 「学校基本調査報告書」(昭51～昭58)による。
2. 進学率 = $\{(進学者数) + (就職進学者数)\} \div (中学校卒業者数) \times 100$

図2-4-2 地域別進学率の推移



注：1. 「学校基本調査報告書」(昭51～昭58)による。
2. 地域別進学率 = $\{(地域の進学者数) + (地域の就職進学者数)\} \div (地域の中学校卒業者数) \times 100$

なお、各地域の志願率を県全体と比較して見ると、県北、会津、いわきの3地域は、県平均を上回っているが、県中、県南の2地域では、県平均を下回っている。相双地域では、上回る